

ガーナ共和国の子どもたちに学校給食を届ける 「CO・OP×レッドカップキャンペーン」を9月21日から開始

日本生活協同組合連合会

日本生活協同組合連合会（略称：日本生協連、会長：浅田克己）は、国際連合世界食糧計画 WFP 協会（国連 WFP 協会）が提起する「レッドカップキャンペーン」に賛同し、ガーナ共和国の子どもたちに学校給食を届ける「CO・OP×レッドカップキャンペーン」を2014年9月21日～10月31日にかけて実施します。

「CO・OP×レッドカップキャンペーン」では、対象となるコープ商品を1点お買い上げいただくごとに1円が WFP 国連世界食糧計画（国連 WFP）に寄付され、ガーナ共和国の子どもたちに学校給食を届けるために使われます。日本生協連は、2014年～2016年の3年間この活動に取り組みます。



キャンペーン対象商品の例

■「CO・OP×レッドカップキャンペーン」の概要

- ・ 期 間：2014年9月21日～10月31日
- ・ 対象商品：全11アイテム（「CO・OP コープヌードル」シリーズ、「CO・OP & クノール スープ バラエティパック」など）
- ・ 寄付方法：対象商品を1点お買い上げいただくごとに1円を寄付
- ・ 寄付目標：200万円
- ・ 寄 付 先：国連 WFP



© WFP/Stephanie Savariaud

日本生協連では今後も、社会貢献寄付付き商品の積極的普及などを通じて、消費者・組合員とともに途上国への継続した支援に取り組んでいきます。

<お問合せ先>

日本生協連 広報部
TEL:03-5778-8106

■「レッドカップキャンペーン」とは

飢えに苦しみ、食べるために働いて学校に通えない子どもたちに、「学校給食を届けるためのキャンペーン」です。給食を入れる容器として使っている赤いカップがシンボルです。



▼「レッドカップキャンペーン」により、下記のような成果が期待できます。

- ・就学率と出席率が著しく向上します
- ・空腹が満たされることで学習に専念できます
- ・少なくとも1日1回は栄養たっぷりの食事がとれます
- ・家にいることが当然だとされていた女子にも学習の機会が与えられます
- ・親も子どもたちを働かせるより通学させることを選ぶようになります

国連 WFP の「学校給食プログラム」は、途上国の子どもたちの健全な成長を促し、教育の機会を広げるため、十分な栄養の摂れる給食を届ける取り組みです。現地の食習慣などを踏まえながら、毎年平均 60 カ国の子どもたちに米、穀物、豆類、栄養強化ビスケットなどを提供しています。また、出席率が一定以上の女子児童に対し、持ち帰り用の食糧を渡す「持ち帰り食糧プログラム」も実施しており、女子児童の就学率向上に成果をあげています。

今回「CO・OP×レッドカップキャンペーン」を通じて支援を行うガーナ共和国は、南北の地域格差が激しく、北東部での子どもの 10 人に 4 人が慢性的な栄養不良となっています（出典：MICS 2011, GDHS 2008, WHO 2011）。本キャンペーンでは、「学校給食プログラム」、「持ち帰り食糧プログラム」を通じて、ガーナ共和国の児童の栄養改善と特に女子児童の就学率・出席率の向上を支援します。

■WFP 国連世界食糧計画(国連 WFP)とは

国連 WFP は、飢餓と貧困のない世の中を目指し活動する国連機関です。食べるものがなく危険にさらされた人々に速やかに食糧を届けることで、命を救います。緊急支援を行う一方で、飢餓のない未来をつくるための中長期的な支援も行っています。例えば学校給食支援のほか、道路や井戸など地域に役立つ生活基盤の工事を支援し、地域住民へ参加を呼びかけ、働いた人へ食糧を配給したり、知識・技能向上のための職業訓練を受ける人には、食糧を提供しています。